

リーディングDXスクール事業【実践事例一覧】

福島県教育委員会

学校名	教育利用・ 校務利用	実践事例の概要	様式
福島県立郡山東 高等学校 【指定校】	教育利用	① 「英検対策指導における活用事例」 ・スピーキングテストの採点基準とオリジナル問題の作成	B-1
福島県立郡山東 高等学校 【指定校】	教育利用	② 「国語科における活用場面とその効果」 ・国語科の各指導場面に活用した際の学習効果と比較検討	B-2
福島県立郡山東 高等学校 【指定校】	校務利用	③ 「部活動の練習メニュー作成」 ・専門外の種目の練習メニューを負担感なく作成する手法	B-3
福島県立郡山東 高等学校 【指定校】	校務利用	④ 「ループリック作成ウィザード」 ・ChatGPT上での対話によりさまざまなループリックを作成するプロンプトを紹介	B-4
福島県立郡山東 高等学校 【指定校】	校務利用	⑤ 「報告書作成」 ・各種報告書を負担感なく作成するための実践例を紹介	B-5
福島県立郡山東 高等学校 【指定校】	校務利用	⑥ 「活用を終えて」 ・実践研究を終えての感想と成果物の共有	B-6



＜教育利用＞ ① 「英検対策指導における活用事例」 ・スピーキングテストの採点基準とオリジナル問題の作成

1. 期待すること

英検対策の指導において、ゼロベースから作成すると時間がかかってしまうタスクをChatGPTで作成。教員の負担軽減と生徒の学習意欲向上を図る。

a. スピーキングテストの採点ループリックを作成

→生徒のスピーキングの採点基準のため、ChatGPTでループリックを作成した。

b. 実力テストを作成

→本校では第3回英語検定を全員受験。冬季課外や冬季休業中の課題で英検対策を行った。そのまとめとしてオリジナル英検用問題を作成するため、ChatGPTを利用した。

＜オリジナル英検問題の作成方法＞

①単語・文法系問題：過去問を入力し、同じ形式・レベルで作成するよう指示。出てきた問題の設問を級毎に入れ替えて完成。

②長文問題：300 words程度の英文、タイトルと語彙レベル、設問内容と解答を指示。出力された文章の内容を吟味し、タイトルを何回か変更。また解答が本文内から導き出せないものだったので再度指示して作成。問題文、設問の語句を級毎に調整して完成。

2. 考察

プロンプトの内容を考えるのに時間を要したが、様々な視点で「問い方」を考察することができ、自分の学びにも繋がった。現在ではインターネット上で様々なプロンプトが利用可能なので、まずはそれらを参照してよいと思う。

<教育利用> ②「国語科における活用場面とその効果」

・国語科の各指導場面に活用した際の学習効果を比較検討

【活用場面】

- ①小論文指導（課題の提案、題材集め、添削）
- ②授業内で使用する例文の作成の補助
- ③記述問題等の採点
- ④小テスト作成

**【活用場面ごとの効果と課題】**

- ①○多様な分野からの小論文問題が提案された。
△機械的であるため、実体験や具体例などを盛り込んだ模範解答の提示には課題がある。
- ②△古典分野の重要語句や句法を生徒に理解させるため、いくつかの例文の提示を求めた。だが、古典分野は誤ったものを提示しがち。
- ③○生徒から提出された記述問題の解答を瞬時に採点できる。（ただし短文に限る）より細かい採点基準の指定により、長文の問題においても効果的な採点が期待される。
△生徒からの提出がデジタルであることが前提。採点の条件づけも細かく覚えさせなければならないので、負担感は大きい。
- ④○ワークの問題を把握させた上で、ランダムに出題させるのには大変便利。

<校務利用> ③ 「部活動の練習メニュー作成」

・専門外の種目の練習メニューを負担感なく作成する手法

1. 活用目的

郡山東高校水泳部の練習用メニュー作成

2. 概要

生成AIの使用前は水泳経験者(クラブなどに所属)に頼って1日1日練習メニューを作るようにしていた。しかし、経験者がいないとメニューは作れず、いたとしても経験者の生徒に負担がかかってしまう。そのため、生成AIを用いることで練習メニューが作れないかと考えた。

<練習メニュー作成方法>

①記録していた全メニュー一覧表(Excel)

②メニュー構成ファイル(Excel)

③高体連強化練習メニューの一部(PDF)

これらをすべて生成AI (GPT-4) に学習させる。

④「1時間のメニューを作成してください」とメッセージを送る。

(出力結果については二次元コード参照)

3. 考察

一般的な Chat GPT では出力不可能な東高校水泳部独自のメニューフォーマットに則ったメニューを作成することが可能となった。また、Excel ファイルで出力することが可能なGPTを作成したことで部員・顧問間での共有等も可能になった。Chat GPT のためメニューを毎回学習させる必要がないことも作業の効率化を図れている。



<校務利用> ④ 「ループリック作成ウィザード」 ・ChatGPT上での対話によりさまざまなループリックを作成するプロンプトを紹介

1 活用目的

観点別評価に対応した評価方法を教員がゼロから考えるのではなく、定型的なプロンプトを活用し、教科・科目・単元ごとの観点別評価のたたき台を作成することで、負担・時間の軽減を行う。

2 概要

ウィザードをChatGPTに貼り付け、GPTからの質問に答えることで、ループリックを作成することができる。

3 手順

関東第一高等学校の田中先生の授業案作成ウィザードを元に、ループリックに特化したウィザードを作成した。

4 実施結果

かなりの出来映えが見込める。ここに高校のレベルが追加することができれば完璧だと思う。また、田中先生のウィザードを元にしてとても良かった点は、教員に授業の具体的に必要な手順が提示されることである。興味のある方は活用して欲しい。プロンプトと、実施結果を提示した。

<校務利用> ⑤ 「報告書作成」 ・各種報告書を負担感なく作成するための実践例を紹介

1 活用目的

研究計画書や報告書、情報モラル指導のためのプリントをゼロベースで作成するのは大変なので、ChatGPTを活用しながら作成することで、負担感を軽減する。

2 作成手順

- ①ChatGPTに研究計画書、報告書、情報モラルを説明するためのプリントに何を書けば良いかを指示する。
- ②内容や順番を整理しないまますべて打ち込み、①の手順どおり、研究計画書と報告書にまとめて、と指示する。情報モラルについて、GPTならどう説明するかをまとめて、と指示する。

3 実施結果

研究計画書や報告書、情報モラルのプリントなどの作成は誰に聞いたらいいのか戸惑うことがあった。周りの先生に尋ねることも負担になるので気を遣うところだ。ChatGPTは気兼ね無く確認することができたし、できあがったものも特段問題ない。普段担当していない業務を任された時のたたき台の作成には積極的に使うべきだと感じた。

研究計画書



先進校視察報告書



情報モラルについて



<校務利用> ⑥ 活用を終えて

とにかく何にでもChatGPTを活用してみようという取り組みを進めた。

生徒利用については保護者の同意が必要だったり、情報モラルについて指導が必要だったり、ハードルが高い。しかし、教員の校務利用についてはそういったことが必要ないので、教員はどんどん使ってみることが大切だと思う。

本校でも、実際に使ったことで、教員のChatGPTに対するイメージが大きく変わった。本県の先生方にも積極的に利用して欲しい。

成果物をサイトで一覧できる形にしたので、二次元コードを添付する。

